

令和5年10月30日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 自由民主党志清会

代表者氏名 堀江 武史

会派の（ 調査研究 ・ 研修 ） 報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	令和5年10月11日（水）～ 令和5年10月13日（金）2泊3日
2 調査研究または 研修の場所	行政視察及び第85回全国都市問題会議
	1日目 仙台市役所
	2日目 八戸市公会堂 3日目 八戸市公会堂
3 調査研究事項 または研修名	1日目 「子ども誰でも通園制度」のモデル事業について
	2・3日目 文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展
4 参加者氏名 (10名)	堀江武史、子籠敏人、天野正昭、村野栄一、ひはら省吾、 中村一広、臼井建、浦野治光、国松まさき、窪島成一
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり

※ 自家用車又はレンタカーを使用した場合は、必ず自家用車・レンタカー使用報告書を添付してください。

【概要】

この報告書は、仙台市と八戸市で行われた視察と第85回全国都市問題会議についての情報を提供し、これらの活動から得た知見をまとめたものである。視察では「子供誰でも通園制度」のモデル事業に焦点を当て、全国都市問題会議では文化芸術とスポーツの地域への影響について学んだ。

1 仙台市行政視察 「子ども誰でも通園制度」のモデル事業について

仙台市の「子供誰でも通園制度」のモデル事業に関する視察を実施した。この制度は未就学児の預かり保育事業を通じて、保育所の空き定員を活用している。

(要旨)

- ・保育所の空き定員を活用した受け入れが行われており、保護者支援と子供の成長を促進している。
- ・課題として、入所児童数の調整が必要であるとの指摘があり、運営の柔軟性が求められている。
- ・保護者への周知やアクセス向上が課題とされており、制度の利用促進が必要。

○子供誰でも通園制度

「子供誰でも通園制度」は、新しい制度で、未就園児を対象とし、月一定時間までの利用が可能で、就労要件を問わない。対象者は市町村による認定の仕組みがあり、利用者と事業実施者との直接契約が行われ、新たな公定価格の仕組みも導入されている。一方、一時預かり事業は現行制度で、未就園児だけでなく、突発的な事情や社会参加により保育が困難となった場合に乳幼児を預かるもので、国は新たなシステムを導入し、利用者が簡単に予約でき、事業者が情報を把握し、請求を容易に行えるようにする予定。

○仙台市子ども若者局の未就学児預かりモデル事業

仙台市子ども若者局の幼稚園・保育部は、未就学児の預かりモデル事業を実施しており、これは保護者支援と子供の成長を促進するために、保育所の空き定員を活用するものである。未就園児を保育所や幼稚園に預けずに定期的に預かり、その効果を評価する。施設の選定はプロポーザル方式で行われ、10業者から5つを選び、余裕活用型と一般型を導入した。保育料は通常の2400円から1000円に軽減し、生活保護世帯と非課税世帯を優先的に選出している。課題として、曜日ごとの児童数調整、保護者への周知向上が挙げられている。

2 第85回全国都市問題会議 文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

八戸市での全国都市問題会議では、文化芸術とスポーツを通じて地域の人々をつなぎ、都市の魅力増進や社会的課題の解決に貢献する例を学んだ。以下、視察で得た情報である。

(要旨)

- ・八戸市では市民の文化活動を奨励し、中心市街地の活性化を促進している。
- ・文化施設やスポーツ活動が地域への影響を持ち、外部からの集客が経済的効果をもたらす。
- ・地域資源の価値と地域コミュニティの強化が議論され、文化芸術とスポーツが地域活性化の鍵とされた。

○文化芸術とスポーツの重要性

文化芸術とスポーツは都市の魅力と発展を促進する要素であり、各地域で人々をつなぎ、会話を生み出している。アートはSDGsとの関連性も強調され、福祉と芸術を学ぶプロジェクトや共生社会を促進するアートコミュニケーション団体が存在し、地域社会と個人の健康格差の解消に寄与している。地域文化、スポーツ、芸術の活性化は、地域のアイデンティティ確立に貢献し、コミュニティの強化につながる重要な要素である。

○八戸の文化のまちづくり

八戸市は市民の多様な文化活動を奨励し、中心市街地の活性化を推進しており、八戸ポータルミュージアム「はっち」が中心的な役割を果たしている。アートプロジェクトやスポーツもサポートされ、地域のプロスポーツチームの活動も文化の一部として位置づけられている。外部からの集客による経済的効果が期待されており、公共施設のマネジメントも改善されている。八戸ブックセンターや美術館なども、本やアートを通じて街を盛り上げる拠点として機能し、パブリックな場を提供している。

○文化政策と地域の活力

文化政策は地域の活力の鍵であり、アート・プロジェクトを通じて地域資源を再発見し、市民参加を促進し、地域のつながりを強化する。文化政策は社会の分母としての役割を果たし、異なる価値観を持つ人々が交流できる機会を提供する。地域文化、スポーツ、芸術の活性化は、地域社会での役割を果たす文化政策が求められている。

○東御市の高所トレーニング施設

東御市長、花岡利夫氏は、関係人口と観光客の減少に直面しており、高所トレーニング施設の提供や支援を行っている。この施設はスポーツ合宿や練習施設として利用され、地域の特性を活かす良い例とされている。また、高地トレーニングは暑さ対策としても選ばれ、トライアスロンの選手やスケート選手などが利用している。高地でのイベントも増加しており、地域の住民にも開かれている。この施設は地域経済に貢献し、地域の魅力を高めている。

○パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、地域資源の価値と地域コミュニティの強化に焦点を当てて多様なトピックが議論された。スポーツに焦点を当てたパネリストは、地域との連携によってスポーツイベントの動員数を増加させた成功事例を共有し、スポーツの本質的な価値を強調した。地域文化、スポーツ、芸術の活性化は、地域社会の強化につながる重要な要素である。

【まとめ】

地域文化、スポーツ、芸術の活性化は、地域社会の強化に貢献し、地域の魅力を高める重要な要素である。これにより、地域のアイデンティティが確立され、市民参加が促進され、異なる価値観を持つ人々が交流できる機会が提供される。文化政策を通じて個々の生きる力を支援し、地域の固有の魅力を発展させ、幸福な地域社会を促進すべきである。スポーツも重要であり、関連産業の活性化、観光促進、健康促進、コミュニティ形成、ライフスキルの向上などに貢献する。このような地域の文化、スポーツ、芸術の活性化を通じて、地域社会の強化が実現できる。

【所見】

視察と全国都市問題会議を通じて、地域社会における子育て支援や文化芸術・スポーツの役割についての重要な洞察を得た。今後、地域の特性に合った施策やプログラムの開発に努め、地域社会の発展と健全な成長を支援していく。

- ・モデル事業ということもあり、試行錯誤して実施しているようであり、視察の受入れをしてもらいありがたかった。
- ・子供誰でも通園制度は、これまで幼稚園等の施設サービスを得られなかった専業主婦等の育児疲れなどの負担軽減を狙いとしている。これには、全国的にみても、申し込みが殺到し状況が報道されるなど、ニーズは高い。仙台市でも同様である。
- ・あきる野市においても、親の就労にかかわらず幼稚園などで定期的な0-2歳の子どもを預けることができる制度ができることは、これまで保育教育施設での預かり保育サービスを受けられなかった層への初めての支援になり、子育て支援の充実を目指す本市にとっては有効である。
- ・こころのでも一時預かり事業をやっているが、幼稚園等で一時預かりをやることは利用者の選択肢が広がることもあり、有意義である。
- ・仙台市では、幼稚園、保育所等の定員に対して1500人の空きがある中、当該制度を活用することは意義あることだと思う。しかし、当該制度が幼稚園も対象にしている中で仙台市では幼稚園を除いて実施している。そもそも当該制度は幼稚園にこそ大きなメリットがあるので、その点について疑問がある。あきる野市においては、現在、都制度を活用して令和6年度から仙台市類似事業の実施を目指して、制度設計を行っている。本市においては、幼稚園も含めて対象となるよう注視していく必要がある。



於：仙台市庁舎 会議室



於：八戸市公会堂